

カンキツ新品種「はるみ」の無加温ハウス栽培

[要約]

カンキツ新品種「はるみ」は無加温ハウス栽培により、低温による果皮障害が回避されて、食味・外観とも優れた高品質果実生産が可能であり、施設栽培に適した有望品種の一つと考えられる。

[担当者] 栽培部 小沢良和・植田栄仁

[背景・ねらい]

「はるみ」は、農林水産省果樹試験場カンキツ部において、「清見」に「ポンカン」を交配して育成された交雑種で、1996年に命名登録され、現在品種登録申請中である。

果実の完全着色期は12月下旬、成熟期は1月下旬頃で、成熟果の大きさは200～300g。糖度は12%、クエン酸含量は1.4%程度、種子は少、果皮は薄く滑らかで剥皮は容易、じょうのう膜は薄くて柔らか、多汁でさわやか、優れた食味を持っている。内陸部（海岸から10km以上）での露地栽培では12月下旬からの冷気・霜による果皮障害が発生し、外観の良好な高品質果実生産と果皮障害防止のためにはハウス栽培が望ましい地域が多いと考えられるので、1993年より無加温ハウス内のウンシュウミカンを中間台として「はるみ」を高接ぎし、生育・果実品質等について検討した。

[成果の内容・特徴]

1. 無加温ハウス栽培では、発芽・開花・果実の着色等は露地より2～3週間早く、果実の成熟期は年次間の差が大きいが概ね、ハウスで1月中旬、露地1月下旬である（表1）。障害果の発生は見られない。
2. 1994年の果実でみると12月まで肥大して、下旬には300g以上となり、糖度は12%以上、クエン酸含量は1.5%以下、果皮色a値は27程度で、露地と比べて高品質である（表2）。
3. 果実の大きさ別に品質をみると、糖度は大玉果で13%以上と高く、クエン酸含量、果肉割合は小玉果で高い傾向にある（表3）。
4. これらの結果から、秋・冬期の気温低下が激しい内陸地域でも、無加温ハウス栽培により外観・品質の優れた果実の生産ができるので、有望品種の一つと考えられる。

[成果の活用面・留意点]

1. ハウス償却費等の経済性を検討する必要がある。
2. 「はるみ」は隔年結果性が強いので、安定生産のための技術開発が必要である。

[具体的データ]

表1 無加温ハウス「はるみ」の生育概況

項目	発芽期	開花盛期	完全着色期	成熟期の果実品質		
				年月日	糖度	クエン酸
ハウス	3月中旬	4月下旬	11月中旬	95.1.13	11.5	0.93 %
				96.3.6	14.3	0.97
				97.1.29	11.2	0.82
露地	4月中旬	5月中旬	12月下旬	95.1.13	11.9	1.02
				96.3.6	16.7	1.51
				97.1.29	12.6	1.25



↑ハウス栽培はるみ

表2 時期別の果実品質

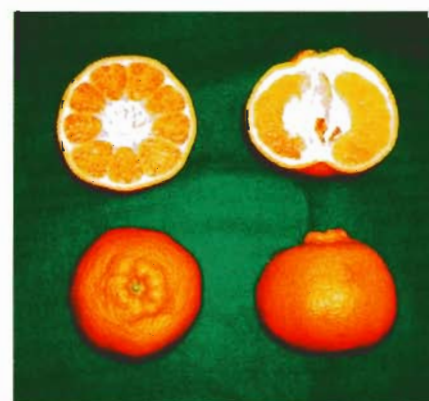
月/日		果実重	果肉割合	糖度	クエン酸	果皮色
		g	%	%	%	a値
9/27	ハウス	193	73.6	11.5	3.48	—
	露地	194	73.7	10.3	2.72	—
10/27	ハウス	258	73.2	12.0	2.20	11.9
	露地	268	75.4	11.4	2.06	-11.0
11/28	ハウス	298	72.8	11.5	1.72	—
	露地	303	70.3	11.0	1.26	—
12/26	ハウス	327	66.1	12.7	1.48	26.9
	露地	340	68.2	11.6	1.28	25.5

調査：1994年

表3 果実の大きさと品質

果実重	果肉割合	横径	果形指数	糖度	クエン酸	果皮色
g	%	mm	%	%	%	a値
118	79.7	70	123	12.5	1.99	26.4
141	77.3	73	116	11.8	1.84	25.8
199	73.9	81	114	11.0	1.72	21.6
225	71.1	81	101	13.6	2.06	25.3
283	68.6	93	102	13.1	1.59	26.3
307	68.1	96	101	13.1	1.34	24.2

調査：1994年12月13日（無加温ハウス）



↑はるみ果実